

2021 年度 第 3 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2021 年(令和 3 年)11 月 5 日(木)17:00-20:00
場所	Web 開催
出席者	(順不同、敬称略) 理事: 祖父江友孝(理事長)、玉腰暁子(副理事長)、三浦克之(副理事長)、岡村智教、栗山進一、若井建志、神田秀幸、曾根博仁、片野田耕太、上原里程、金子聰、関根道和、安田誠史、松尾恵太郎、井上真奈美、尾島俊之、井上茂、小橋元、本庄かおり、郡山千早 第 32 回学術総会会長: 近藤克則 第 33 回学術総会会長: 尾島俊之 監事: 西信雄、横山徹爾 学会事務局: 北村哲久(事務局長)、西野雅子、糟谷里美
陪席	選挙管理委員会委員長: 福田吉治

- 理事会に先立ち、祖父江理事長より、理事・監事 22 名全員の出席により理事会が成立していることが確認された。

<協議事項>

1. 2021 年度第 2 回一般社団法人日本疫学会理事会議事録(案)は承認された。
2. 2021 年度事業報告(案)について、祖父江理事長より説明があり、承認された。2021 年度収支予想について、北村事務局長より説明があった。会員数の増加に伴う会費収入の増加やプレセミナー参加費の増収があり、国際情報発信強化 5 年間の科研費の 2 年目として 400 万円が交付された。一方、疫学専門家認定筆記試験を再開する予定であるが、受験者の動向が不透明のため、疫学専門家審査料の減収が予想される。しかし、新型コロナウイルスのために国際編集委員会が Web 開催となり、理事会等もオンラインでの開催となったため、旅費等の支出がなくなること、また、科研費の次年度繰越等を除いても、2021 年度収支予想は 370 万円程度の黒字になる予想であることが説明された。
3. 2022 年度事業計画(案)について、祖父江理事長より説明があり承認された。2022 年度予算書(案)について、祖父江理事長から次の説明があり、2022 年度予算書(案)は承認された。
 - 疫学専門家申請登録料は、疫学専門家 30 人、上級疫学専門家 30 人で見積もっている。
 - JE 国際情報発信強化の科研費を 2020 年 4 月より 5 年間獲得しているため、補助金収入を予算に計上した。ただし、2021 年度からの繰越金が 200 万円

(2022年3月までに支出)、2022年4月から400万円が交付される予定である。

- 2021年1月の実施が中止となった疫学専門家認定筆記試験が2022年1月実施予定のため、事務局業務の増加に対応するため、予算に計上している。
4. 日本疫学会奨励賞の選考結果について、奨励賞選考委員会委員長代理の安田理事より下記のとおり提案があり、承認された。
- 奨励賞選考の結果、受賞者は次の2名である。(敬称略)
伊藤 ゆり (大阪医科薬科大学 研究支援センター 医療統計室)
久松 隆史 (岡山大学学術研究院 医歯薬学域 公衆衛生学分野)
 - 奨励賞選考結果の通知書に若手研究者に対する配慮ある文言「今後、更なる研究のご発展を期待しています」あるいは「今後、更なる研究のご発展と、日本疫学会でのご活躍を期待しています」を加筆することになった。
 - 2021年度奨励賞募集を、2020年10月度理事会で承認された改定後の募集要項に則って行ったが、学会ホームページ掲載の推薦書様式が改訂後様式へ更新されていなかったため、応募者8名全員が、改定前の推薦書様式に則って応募書類を作成したことが報告された。今年度の奨励賞審査委員全員が、「推薦書様式の改訂様式への更新漏れは、今年度の審査結果に影響を与えるものではないこと」を確認し、応募者全員が改訂前の推薦書様式を用いていたことも考慮し、今年度の審査を改訂前の推薦書様式に基づいて行ったとの説明があった。来年度から推薦書様式のタイトルを「日本疫学会 令和〇年度 奨励賞受賞者推薦書」へ改訂し、ホームページでの奨励賞募集告知文中でも、令和〇年度の推薦書様式を使用するよう注意を促すことが提案され、承認された。なお、学会事務局は、奨励賞募集を告知する際、ホームページ掲載の推薦書様式が当該年度のものに差し替えられていること、および、古い推薦書様式がサーバーから完全に削除されていることを確認することになった。
 - 奨励賞選考委員会からの講評を、学術総会における受賞者講演の前に述べるとともに、ニュースレターNo. 59 (2022年4月15日発行) に掲載することになった。
5. 名誉会員の推薦および功労賞受賞者の推薦について、担当理事より下記のとおり提案があり、承認された。(敬称略)
- 名誉会員推薦：秋葉 澄伯 (理事 1995-1997/2007-2009/2013-2014、理事長 2010-2012、功労賞 2014年受賞)

森 満（指名理事 2010-2012、第 21 回学術総会会長、功労賞
2012 年受賞）

●功労賞受賞者推薦：田中 恵太郎（第 31 回学術総会会長）

6. 2022 年度の新体制（2022 年 1 月 27 日の社員総会から）について、玉腰次期理事長より、次期指名理事と副理事長が推薦され、下記のとおり承認された。（敬称略）

指名理事：片野田耕太、郡山千早、関根道和、福島若葉、村上義孝

副理事長：井上真奈美、関根道和

また、新事務局長を菊池宏幸氏に依頼する予定との報告があった。

7. JE 編集委員会について松尾委員長から次の報告があった。

- 2021 年 12 月に第 1 回編集委員会をオンライン開催予定。（7 月開催予定は中止）
- 投稿、掲載状況に関して、本年の投稿数は昨年より若干ペースは落ちているが、それでも高い（年 500～600 程度）。年間掲載原著論文数が最大 75 編程度であり、アクセプトは厳格にならざるを得ない。
- Impact Factor 2021 については、2 年値が 3.211（昨年 3.691）で、5 年値の報告は廃止となった。
- Guide for Authors 改訂実施を 8 月から適応開始した。改訂は、①国内著者の会員義務規定の撤廃 ②非会員掲載費用の値上げ ③論文への Data availability statement の必須化 ④Profile 論文の様式改訂（Intro/Method/Result/Discussion 形式の廃止）、Profile Update の追加である。また、国内著者の掲載料の請求額の齟齬の発生については、2021/7/7 付メールにて報告済みである。
- 編集委員会メンバー交代について、次の説明があり、承認された。
 - ①現 EIC は辞任し、現 Deputy editor の片野田耕太先生（3 期 1 年目）が次期 EIC（現新理事長の承認済み）。EIC 業務の引継を開始している。Deputy editors も交代（京都大学院の 近藤尚己先生、聖路加国際大学院 浦山ケビン先生）。
 - ②引退（満期による引退：通常 2 期、3 期目は担当エリアの交代がない場合）
松尾恵太郎（3 期満了、内 5 年 EIC 併任。現 Consulting editor の井上真奈美先生から Consulting Editor を引き継ぐ。）
藤原武男（3 期満了、内 5 年 Deputy editor 併任）、内藤真理子（3 期満了）
林田賢史（3 期満了）、澤田亨（2 期満了）、浅尾啓子（2 期満了）、Jeongseon Kim（3 期途中、退任希望）

③新任

中田由夫(筑波大学、運動疫学)、田栗正隆(横浜市立大学、疫学方法論)
尾瀬功(愛知県がんセンター、がん疫学、分子疫学)、Sun-Young Kim(韓国国立がんセンター、がん疫学)

- Paper of the year (POY) の選考結果以下の論文が選定されたことが報告され、承認された。

“Loss of Working Life Years Due to Mortality, Sickness Absence, or Ill-health Retirement: A Comprehensive Approach to Estimating Disease Burden in the Workplace”
Yosuke Inoue, Shuhei Nomura, Chihiro Nishiura, Ai Hori, Kenya Yamamoto, Tohru Nakagawa, Toru Honda, Shuichiro Yamamoto, Masafumi Eguchi, Takeshi Kochi, Toshiaki Miyamoto, Hiroko Okazaki, Teppei Imai, Akiko Nishihara, Takayuki Ogasawara, Naoko Sasaki, Akihiko Uehara, Makoto Yamamoto, Makiko Shimizu, Maki Konishi, Isamu Kabe, Tetsuya Mizoue, Seitaro Dohi. JE 2021;31:403-409.
 - Best Reviewer は 10 月末データを持って選考を開始予定
 - 科研費「国際情報発信強化」については、次の説明があった。JE 掲載論文の PR 強化（既発行論文を元にプロモーション用の号を作成、JE に投稿してくれる可能性がある海外の研究者に郵送にて 3 月末に送付。JECH, Cancer Epidemiol 掲載論文の corresponding author と編集委員会メンバーの知己の研究者対象）
 - SNS の活用に関する議論は、Twitter/Facebook の活用に関する討議が編集委員会 でなされた。今後、JE 編集委員会 有志で行う方向で、次回編集委員会にて検討。
8. COI 委員会の郡山委員長より、次の提案および報告があった。
- 日本疫学会 COI 指針・細則および自己申告様式の改訂案について提案があり、承認された。主な改訂は、日本医学会連合の指針に沿って、①学会自体の組織 COI マネジメントについての記述を追加 ②学術総会などで、企業・営利団体が共催となるセミナー、講演会などの座長・司会を務める者の COI 状態の開示を追加 ③会員の COI 自己申告様式に、(会員が所属する研究所・大学等の)組織 COI の申告を追加 である。
 - COI 申告の申告者自身によるシステム入力化を進めるとの報告があった。
 - 学会 HP 上での質問受付を開始したとの報告があった。

- 第32回日本疫学会学術総会において、教育講演「臨床研究に関する利益相反の考え方（仮）」（中田はる佳先生:国立がん研究センター）が行なわれる旨の説明があった。

9. 選挙規定検討委員会の郡山委員長より、代議員および役員の選任に関する細則について、以下の修正案が提案され、承認された。

- （理事候補者の選任）
（修正案）第18条 選挙管理委員長は、理事候補者の名簿を地域区分ごとに作成し、選挙管理委員会の住所、連絡先、選挙すべき理事の定数、投票締切日を明示して、それぞれ該当する地域区分の代議員に通知しなければならない。ただし、第17条に基づき候補者の数が、当該地域において選任すべき理事の数と同数となったときは、投票は行わない。
- （監事候補者の選任）
（修正案：投票となった場合、2名連記の投票とすることを明文化する案）
第23条 監事候補者は、代議員3名による推薦を受け、本人の承諾を得た者とする。
2 選挙管理委員会は、監事候補者の氏名、経歴および所信または推薦理由を全代議員に通知し、選挙を実施する。ただし、第23条1項に基づき、候補者が2名であった場合は投票を行わない。
3 全国の代議員が、2名を無記名連記で投票する。得票数の多い順に2名を当選者とし、次点を予備監事候補者とする。得票数が同数の場合は、あらかじめ選挙管理委員会の定める方法により、当選者・予備監事候補者を決定する。

10. 総務委員会の北村委員長より、次の細則に関する改訂案および規定に関する提案があり、承認された。

- 「学術総会に関する細則」の第4条第2項に、新型コロナウイルス感染等の状況を勘案して「原則として」を加え、「運営においては、原則として託児所を設置するものとする。」としたいとの提案があり、承認された。
- 「緊急性のある事項に関する対応についての申し合わせ事項(案)」について、次の案が提案され、承認された。
学会から緊急声明を出す必要がある場合など、緊急対応が必要な際には、以下のように行うこととする。
 - 理事長の判断により声明等を発出することができるが、事前にメールにより過半数の理事の同意をもってそれを行う。

- ただし、監事が異議を述べた時は、理事会（Webを含む）を開催して決議することとする。
 - 緊急性のある事項に関する対応を行った場合、理事長は理事会にその経緯を報告する。
- 「休会に関する細則」について、8月1日より学会誌の投稿規定が変更されたのに伴い、第1条第2項(3)を「学会誌 ” Journal of Epidemiology” に投稿する場合は、非会員むけ掲載料が適用となる。」と変更したいとの提案があり、承認された。
 - 「職員退職給与規則」第3条(退職手当の算出)について検討が行われ、「職員退職金の算出方法」および「退職金支給率」が提案され、承認された。
 - Zoom Meeting等の契約の支払いがクレジットカードのみによる場合があり、法人カードの作成が必須となったため、「法人カード利用規程」の設定が提案され、承認された。
 - 近年、会員によるクレジットカード払いの増加などにより、PayPal（オンライン決済サービス）の利用が多くなったため、「PayPal 利用規程」の設定が提案され、承認された。

11. その他の協議事項

- 第34回日本疫学会学術総会の会長として、三浦克之先生が推薦され、承認された。
- 2022年第6回定時社員総会の開催について、次のとおり提案され、承認された。日時：2022年1月27日(木)18:00~19:00、場所：東京ベイ舞浜ホテルファーストリゾート（ハイブリッド開催）
- 2022年度第1回理事会の開催（新・旧理事引継ぎ）の開催について、次のとおり提案され、承認された。日時：2022年1月26日(水)18:00~20:00、場所：東京ベイ舞浜ホテルファーストリゾート（ハイブリッド開催）
- 未納会費があるまま自動退会し、再入会する場合の対応について検討が行われ、現行どおり、未納分のうち1年分の会費を納めていただき、再入会手続きを行う（未納期間は会員歴には入れない）ことになった。
- 学術総会演題登録時に倫理審査が実施されていない、もしくは審査中の演題の登録について検討が行われた。学術総会においては、倫理審査の承認を得ていない論文の演題登録については、倫理問題検討WGで、その手続きについて検討いただくことになった。今後数年間は、演題登録時に倫理審査の認否について（未承認の場合はその理由を）記載する枠を設け、承認されない場合には演題登録を取り下げてもらうことも含め、倫理審査についての項目を試行することになった。

またすでに発表した（または、投稿中の）論文の演題登録については、他学会の実態も踏まえながら、検討を継続することになった。

<報告事項>

1. 祖父江理事長から次の報告があった。
 - 「疫学の事典（仮）」進捗状況について、継続的に作業している。
 - JE年間購読料（Vol. 32 2022年）の価格設定について、次のとおり変更・据え置きする旨の説明があった。
 - ①年間購読料 会員：8,300円→9,000円 非会員：24,500円→26,000円
 - ②1冊あたりの購読料（据え置き）会員：2,000円 非会員：5,000円
 - 2021年度日本医師会の各賞の受賞者について通知があった。①医学賞受賞：中村好一先生（自治医科大学）②研究奨励賞受賞：道川武紘先生（東邦大学）
 - 日本医学会へ日本疫学会活動報告を玉腰副理事長が執筆・提出（6/4）し、追加依頼によりダイジェスト版作成予定である。
 - 日本医学会120年記念事業『日本医学会120年記念誌』に掲載予定の日本疫学会についての記事を玉腰副理事長が執筆・提出（8/17）した。
 - 新型コロナウイルス感染症による他疾患等への影響調査について（日本医学会連合研究助成）、会員から募集し、理事長推薦で、個人としての申請7件を提出（5/25）した。
 - 福島県 甲状腺検査評価部会の部会員は、祖父江理事長が継続する。
 - 福島県「県民健康調査」意見書作成業務に係る委員として、坂本なほ子先生（東邦大学）を推薦した。
 - 「福島県県民健康調査の調査情報提供に関する審査会（仮称）」委員として、郡山千早先生、栗山進一先生が就任した。
 - 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会（全公連）の日本疫学会からの代表者を次のように変更した。正会員相当者（秋葉先生→祖父江先生）、代理者（中山先生→玉腰先生）また、全公連の役員改正（2023年4月～2026年3月）は以下のとおりである。①世話人代表：磯博康（日本公衆衛生学会）②世話人：市倉加奈子（日本行動医学会）、田高悦子（日本地域看護学会）③監事：正岡直樹（日本母性衛生学会）、村上仁（日本国際保健医療学会）
 - 理事会メール審議事項の提案は、基本的に理事長に確認の上、事務局より発出したとの報告があった。
 - COVID-19パンデミック下におけるオリンピック・パラリンピック開催について、メールで議論の結果、反対がなかったため要望書を発出（6/20）
 - Journal of Epidemiology に関してご報告並びに審議のお願い（7/7）

⇒掲載料を8頁以上の場合に1頁1万という記載に訂正することについて承認(7/12)

- 日本医学会から優性遺伝・劣性遺伝の推奨用語が「顕性遺伝」「潜性遺伝」に決定したことについて意見依頼(9/6)⇒特に意見なしのため承認(9/8)

2. 各委員会等から次の報告があった。

- 1) 選挙管理委員会の福田吉治委員長より、代議員選挙、選出理事・監事選挙、理事長(代表理事)選挙についての報告があった。また、代議員不在の県については、今後指名代議員なども含め、選挙規定検討委員会等で検討を進めることになった。さらに、代議員選挙・選出理事選挙において、得票数が同数の場合、規定どおり抽選により決定したが、今後ジェンダーを考慮して、例えば、男性の代議員・選出理事が多い場合には女性を優先するなど、今後の検討課題となった。多様性(ダイバーシティ)促進委員会でもその必要性や方法について検討してもらうことになった。
- 2) 疫学リソース利用促進委員会の既存疫学研究データ資源化・共有・活用ワーキンググループの神田秀幸WG長より、既存疫学研究のアーカイブ化については、日本薬剤疫学会 Outcome Definition Repository Task Force より、日本疫学会を含めた関連3学会(日本臨床疫学会、日本薬剤疫学会)でのレポジトリ構築に合意後、動きがないため、本WGとして対応待ちの状態である、との報告があった。
- 3) 学会等連携推進委員会の曾根博仁委員長より、次の報告があった。①他学会との共催シンポジウム・セミナーの開催件数は目標を上回り開催されており、最新の内容はホームページに掲載されている。②「日本医学会連合主催 社会医学若手フォーラム」の開催について、社会医学系各学会の若手研究者交流促進のために本委員会桑原先生を実行委員長、本委員会委員長曾根をシニア委員として、一年遅れで2021年3月5日開催された「第1回社会部会若手リトリート2019」が無事に終了し、その後、引き続き第1回ならびに第2回「社会医学若手フォーラム」がそれぞれ、2021年6月26日、8月27日にそれぞれオンライン開催され、社会医学系各学会の若手交流が継続している。③医学会連合 COVID-19 expert opinion について、本文書に関して英語版が出版された。
また、禁煙推進学術ネットワークの片野田耕太WG長より、次の報告があった。
①2021年6月23日に理事会・定例会議(オンライン)開催(片野田出席)、9月21日に理事会開催。 加熱式たばこについて、新型タバコによる急性肺障

害に関する調査を継続中。禁煙治療分野では「禁煙治療のための標準手順書 第 8.1 版」(2021.9.16 公開)。新型コロナウイルス感染症については、たばこのリスクについてのメタアナリシス紹介、禁煙率の変化についての文献紹介、避難所における新型コロナウイルス感染症に配慮した循環器疾患の予防と対策(日本循環器学会)。受動喫煙防止法制化について受動喫煙防止_自治体の法制化の動きのまとめの紹介(20210617 時点)、自治体・職域における喫煙対策を推進するための資料。タバコから子どもを守る小委員会による関連論文などの紹介。周産期禁煙推進小委員会による周術期近年プラクティカルガイド公開。第 3 回禁煙推進学術ネットワーク学術会議について、2021 年 1 月に福岡で予定されていたが(日本内科学会・福岡大学朔啓二郎先生大会長)、対面で可能になるまで延期(11/27 開催予定)。第 32 回日本疫学会学術総会での禁煙推進学術ネットワーク WG 企画シンポジウム「社会格差問題としてのたばこ(仮)」開催。

- 4) 多様性(ダイバーシティ)促進委員会の上原委員長より、次の報告があった。選挙管理委員会からの提案を受け、検討した結果、現時点では本委員会で何らかの提言ができるものではないが、会員登録情報データ等を活用し、男女、年齢、職能(医師・非医師)等多様性の視点で普通会员と役員を比較するなど、会員特性を定期的な確認は必要であるとの見解が示された。また、今後の課題として、会員登録情報の集計と分析、学会ホームページの英訳、学会に直接参加できない境遇の人のリモート参加についての検討を継続していく。

- 5) 広報委員会の金子委員長より、次の報告があった。従来からの活動である年 2 回の疫学会ニュースレターの刊行(58 号 2021.10.15 発行)、一般向けコーナーの充実に加え、新型コロナウイルス感染症特設サイトを特設サイト運営アドホックグループ(covid-19 の ML)による運営を進めるとともに、「COVID-19 関連論文の紹介～疫学者の卵による“私が選んだこの 1 編”～」の掲載により、情報の提供に努めている。

また、メディア連携 WG の関根道和 WG 長より、マスメディアに対する疫学的考え方の普及を目指し、マスメディアからの疫学情報の正確な発信に向け、ガイドラインや各種マニュアルの作成によりマスメディアとの連携を推進する活を進めている旨の説明があった。さらに、疫学リテラシー普及促進 WG の安田誠史 WG 長より、一般の人への疫学的考え方の普及を目指し、国民の疫学研究に対する理解と信頼の現状を調査し、義務教育、高校教育、大学教育などを通して向上させる活動を進めているとの説明があった。

ウェブサイトへのアクセス数は、2020 年 5 月の第一週の 6 万 1 千ビューを最高に、最近では低迷し、週に 1500 ビュー程度にとどまっているとの報告があった。

- 6) 国際化推進委員会の井上真奈美委員長より、以下の報告があった。
- JEA32（千葉）のトラベルアワードの募集はしない。
 - WCE2021（メルボルン）トラベルアワードは、延期に伴い選考を中断していたが、オンライン開催（2021/9/3-6）が確定したため、内容を変更して次のように実施した。①国際疫学会員（IEAWP Region 会員）向け（IEA-JEA Award）（IEA マッチンググラントにより 50%、JEA より 50%）がもともと 1600USD×5 名（参加費免除+旅費）の予定であったが、参加費免除（参加費+preworkshop 参加費）×18 名に変更（WCE、AEA 側と既に対応済み）②日本疫学会会員向けには、もともと 10 万円×7 名であったが、5 万円×7 名とし、今回の発表テーマを JE に筆頭で投稿し受諾された場合に掲載料 7 万円を免除（国際化基金より支払い）。
 - 日韓セミナーThe 11th Korea-Japan Joint Epidemiology Seminar（2021/9/16、13:00-14:30）が韓国疫学会 2021 年学術総会内で、オンライン形式にて開催された。Kota Katanoda（日本疫学会）、Aesun Shin（韓国疫学会）が座長を務めた。
- 7) 疫学専門家・人材育成委員会の活動について、尾島委員長より委員会全体の活動報告があった。
- 資格審査 WG の小橋 WG 長より疫学専門家認定制度について、以下の報告があった。申請期間は、2021 年 8 月 2 日～9 月 24 日であった。（一般）疫学専門家の申請者は 33 名（うち書類審査合格済で筆記試験のみ受験の方 7 名）、書類審査合格通知 2021 年 12 月下旬までに行い、結果発表は 2022 年 3 月にホームページ上に掲載する予定である。また上級疫学専門家の申請者は 38 名（うち同時申請者 35 名）で、書類審査を 2021 年 9 月 27 日～ 12 月 14 日に行ない、合格通知を 2021 年 12 月下旬までに行う予定である。
 - 試験作成 WG の井上茂 WG 長より、次の説明があった。試験設計、作問委員の選任、ブラッシュアップ委員の選任を終了し、試験作成依頼、問題回収も終了した。現在、試験問題のブラッシュアップおよび試験実施要項の作成を進めている。筆記試験を 2022 年 1 月 28 日（金）に第 32 回学術総会終了後に実施する。
 - 社会医学系専門医協会関係では、井上茂認定委員会委員より、令和 3 年度第 5 回専門医・指導医認定委員会（6 月 19 日 Web）が開催され、試験分科会の 大久保孝義委員とともに第 2 回社会医学系専門医試験（2021 年 9 月 12 日実施@日本医師会館）に協力した旨の報告があった。

- 疫学教育推進WGの本庄WG長からは、次の報告があった。①2021年8月22日(日)にサマーセミナー2021をオンラインにて実施した(テーマ:新型コロナ対策から考える、疫学のものの見方と考え方 講師:鈴木貞夫先生)。80名の参加(参加費無料)があり、運営会場を日本医科大学に設置し、陣内先生、菊池先生、長嶺先生を中心に、チューターとしてWG委員、若手の会有志の先生方にご協力いただき、無事に開催できた。アンケート調査では概ね良好な評価を得た。②第32回日本疫学会学術総会におけるプレセミナーの企画について、企画1「いま改めて『欠測データ』の解析について考える」と企画2「査読のいろは」を選定し、準備を進めている。
3. 第32回日本疫学会学術総会の準備状況について、近藤克則学会長よりプログラムの概要、協賛・共催について説明があった。また、《一次受付》2021年8月20日(木)~1月12日(水)、《二次受付》2022年1月13日(木)~3月9日(水)とする。参加登録数(10/21時点)は256、演題登録数は329(10/21時点)であるとの報告があった。
4. 第33回日本疫学会学術総会の準備状況について、尾島俊之学会長より次の説明があった。①開催日時:2023年2月1日(水)~2月3日(金) ②会場:アクトシティ浜松 ③開催形態:集合会場を基本にして、一部オンライン併用 ④運営会社は公募の上、第32回学術総会ごろを目処に決定する。⑤事務局長は、浜松医科大学の中村美詠子先生が務める。
5. 学会事務局活動および庶務について、北村事務局長より次の報告があった。
- 1) 学会事務局活動
- 会費の再請求(7/5)3年未納者へメール・郵送:57人、ゆうちょ払込票再郵送(7月):499人
 - 入会・退会手続き(5月-9月)入会97人(内学生54人)、退会70人、再入会2人
 - 会計処理、決算準備
 - メルマガの発行(31件)、会員専用サイト(会員登録票の整備、疫学専門家認定電子システムとの連携)
 - 学術総会引き継ぎ補助(Web 5/31)、学術総会開催補助
 - ホームページ更新
 - 理事長ミーティング(5/12、6/2、7/14、8/4、9/1、10/6)、理事会メール審議、第3回理事会開催準備(打合せ10/19)
 - 委員会活動の支援(Web会議開催補助、共催対応、ニュースレター編集補助、JE編集室ミーティング補助、科研費管理、トラベルアワード対応、プレセミナー主

催者募集・開催案内・参加受付、疫学専門家申請に関する対応、COI 申告書提出
依頼・収集・報告、奨励賞選考補助等)

- 関連団体への対応（日本医学会、日本医学会連合、日本医師会、禁煙推進学術ネットワーク、厚生労働省、SGH 特別賞推薦、後援名義使用許可、アンケート回答ほか)

2) 庶務報告

- 会員数(2021年10月1日現在)：名誉会員：31名、代議員：208名、普通会員：2,320名(合計：2,559名)
※普通会員のうち2021年入会学生：88名、海外会員：26名(内学生3名)
- 年会費納入状況(2021年10月26日現在)：2021年度会費の納入義務のある会員：2,460名、2021年度までの会費納入完了者：2,237名、91%)、2年以上(2019年度から)の滞納者：71名